

1. 江戸幕府が統治の指導原理として官学にした、性即理や大義名分論の強調を特色とした儒学。 1
2. **PERSON** 江戸初期の儒学者で、五山の僧侶や公家の教養から儒学を独立させた「近世儒学の祖」。家康に講義したが仕えず、弟子の羅山を推挙。 2
3. 藤原惺窩が重視した、世界と個人が理を媒介にして通じ合っているという朱子学の考え方。世界の在り方と個人の生き方がシンクロする？ 3
4. **PERSON** 江戸初期の朱子学者で、四代の将軍に仕えた「林家の学（林派朱子学）の祖」。 4
5. 林羅山が朱子学の強調する大義名分論を発展させて、君臣上下関係の定めを天理としたもの。これにより、幕府支配体制を正当化。 5
6. 林羅山が個人の道徳的修養を奨め、私利私欲を戒めた徳目。武士道に大きな影響。語義：ここでは「うやまい」でなく「つつしみ」の意味 6
7. 林羅山が上野に創設した私塾が死後、将軍綱吉によって神田の湯島に移された後に、林家が主宰する幕府直轄の学問所となったもの。 7
8. **PERSON** 江戸前期の朱子学者・神道家で、儒神二道を結びつけた。 8
9. 山崎闇斎による儒神二道を結びつけた神道。神人同一説で天皇崇拜に基づく大義名分論と封建道徳を説き、後の国粹的な尊王運動に影響大。 9
10. 山崎闇斎が主張した個人の道徳的修養（羅山と同じ）と倫理の教え。 10
11. 儒学の原典である「周公（周代の政治家で名は旦）・孔孟の学」を直接学ぼうとする日本儒学派。官学の朱子学派やそれに反発した陽明学派に対抗。 11
12. **PERSON** 江戸前期の儒学者・兵学者で、「古学派三人衆」。「古学（聖学）」を初めて主張。 12
13. 山鹿素行が説いた武士の使命感（人倫の道の実現）と修養の道徳観。武士道に大きな影響。 13
14. 山鹿素行が説いた士道や後の武士道に相当する、古代ローマに起源を持つ「高い身分に伴う義務」や責任感の徳目。仏語の *noblesse oblige* 。 14
15. 山鹿素行の主著で、初めて「古学（聖人の教えに直接学ぶ）」を主張し、その要点を記録したもの。 15

T. Q. 「羅山はどのように幕府支配を正当化したか？」

T. A.

羅山は儒教の考えを政治に上手に活用し、朱子学によって社会・身分秩序を守ることを重視している。上下定分の理や敬を強調したが、これらは戦国時代以来の混乱をおさめる必要から説かれた考え方であり、政治的に幕府の支配体制を正当化することになった。